

帳記日

No 1

五ノ一

大
澤
武

子季澤大

三月二十三日 晴



久米川の多摩川へ
寺の爆音が電車
行きの青梅が
た村の梅が
つて村の梅が
うて村の梅が
ふて村の梅が
のて村の梅が
のて村の梅が
かて村の梅が
はて村の梅が
またて村の梅が
そて村の梅が
てて村の梅が
やて村の梅が
こて村の梅が

撃

玄玄

茂

状

状

A colorful illustration of three figures in traditional attire, possibly from a story or cultural context. The figure on the left wears a blue tunic and a white headscarf with a blue band. The middle figure wears a blue tunic and a dark headscarf. The figure on the right wears a red and white checkered tunic and a blue headscarf. They are standing on a light brown ground.

晴金 日 三十一 月 三



て、らし聲まが三る口下し。聲りおは様
 おた。でい村部とさつた。とでま歸った
 とやさた。先五青んて何さし、くち
 こすおや全年梅とね村回した。りたが
 へみ手う私がとか行る野もやにっお
 入な洗な達いいいき時さ、私ると歸
 りさへらはらっど、まおん、う、運る、稻
 まい入と又っしう、し手の、は、こ、村
 しをつい大しよのた洗家いな犬とさつ
 た、いてひきやに驛へへひ、きにん
 つかまないますへす坂歸まらなながし

晴 (日) 月 五 十 二 月 三



今 日 は あ た ま き か い は い び か で ま 垣 た
 私 は お 休 み し ま か い は い び か で ま 垣 た
 の じ ょ う 紙 を の り へ て お ね ぐ さ い
 さ ん と と お 机 の 上 へ 二 人 ね ぐ さ い
 し た と や ぎ が け ん を し っ た た て
 来 る と だ の で 二 人 ね ぐ さ い
 お そ り だ の で 二 人 ね ぐ さ い
 そ り だ の で 二 人 ね ぐ さ い

A drawing of two children. On the left, a child with dark hair and red cheeks, wearing a red and white checkered shirt and pants, is sitting on a white table. They are holding a small, light-colored object in their right hand. On the right, another child with dark hair and red cheeks, wearing a light-colored shirt and dark pants, is standing and holding a small, light-colored object in their right hand. Between them on the floor are two small, light-colored circular objects, one of which has the word "BUTTER" written on it.

A simple line drawing on lined paper depicting three children. On the right, a child with short dark hair, wearing a blue long-sleeved dress, sits on a small wooden stool. To the left, two other children are sitting on the floor. The child in the middle is wearing a blue dress and is holding an open book, reading it. The child on the far left is wearing a red and white checkered shirt and is looking towards the book. On the floor to the right of the stool, there is a stack of books and a small round object, possibly a lid or a coin. The background is a plain white surface with horizontal blue lines.

099

晴 (木) 日 九 十 二 月 三



つはへへシたては朝す
た。い行た。ンドヤ。遊。自會り
り。つ。ンドツ。ん。由のを
た。た。私。ド。を。で。広達は。時く
の。け。ン。着。か。は。片だ
い。タ。い。と。た。へ。ら。ゴ。山さ
お。方。そ。た。入。日。ム。先い
部。風。い。す。っ。記。ナ。つ。主ま
屋。か。で。る。て。を。ハ。し。か。し
へ。吹。こ。と。か。を。し。や。今。た
入。き。聞。ド。ら。い。し。つ。日。

晴 (水) 日 八 + 二 月 三

[illegible]

晴 (日) 日 一 月 四



つてい私疎[↑]おが[↑]三おみ村かて三ーっ
たぬろは開[↑]つ集しさるん野り五橋人し
るんすでてし團やんとなた六さだや
うなぐい見や疎[↑]が[↑]おでん年ん っ
ちこねそるつ開たお父トの夜だ佐夜た
にとたか[↑]とたへも様う家食け竹食
眠を[↑]明行おか[↑]と[↑]を[↑]でさのこ
つかぬか日おき父へ本[↑]つかす[↑]ん時ん
てんてっ荷家ま様に家へもーあはど
しが[↑]かた持へすはいのしっせ人は私は
まへらの歸とぬら晃てててはせと私

晴 (日) 日 一 月 四



山やをへ岩様なだて岩しう[↑]っ商様も
崎[↑]つかが田はい未始田やっのし島とと
さたけへさおのてめさらしおやさ野か
んのて[↑]く[↑]し[↑]で[↑]か[↑]て[↑]ん[↑]な[↑]や[↑]母[↑]っ[↑]ん[↑]村[↑]ら[↑]
ので[↑]あ[↑]た[↑]の[↑]り[↑]岩[↑]う[↑]し[↑]の[↑]い[↑]ら[↑]様[↑]た[↑]の[↑]さ[↑]岩
お私[↑]げ[↑]ら[↑]お[↑]な[↑]田[↑]や[↑]っ[↑]お[↑]は[↑]な[↑]け[↑]お[↑]ん[↑]田[↑]
父[↑]は[↑]る[↑]す[↑]母[↑]り[↑]さ[↑]日[↑]た[↑]母[↑]づ[↑]い[↑]た[↑]私[↑]母[↑]の[↑]さ[↑]
様[↑]喜[↑]と[↑]ぐ[↑]様[↑]な[↑]ん[↑]し[↑]様[↑]た[↑]か[↑]く[↑]様[↑]お[↑]ん[↑]
もん[↑]あ[↑]お[↑]け[↑]か[↑]の[↑]か[↑]私[↑]に[↑]い[↑]な[↑]山[↑]が[↑]母[↑]の[↑]
いだ[↑]っ[↑]電[↑]あ[↑]う[↑]お[↑]た[↑]は[↑]聞[↑]私[↑]う[↑]か[↑]崎[↑]お[↑]様[↑]お[↑]
う[↑]し[↑]話[↑]家[↑]た[↑]母[↑]た[↑]ま[↑]い[↑]は[↑]っ[↑]い[↑]さ[↑]う[↑]と[↑]母
の
だ。

晴 (水) 日 三 月 四



つので車せ途う出い出とし今 だうう私明
た。内が"き中かかつかおゆ日四さなへは、日
十なが"でとけしけ姉のは月つい。た。持は
私ニが出す"思たよた。様。雨四た、る。っ。荷作
達時 / てい。お。ナ。に。で。見。だ。日。水。の。お。て。行。も。
は、に。こ。ぶ。な。ー。か。私。荷。さ。雨。の。を。父。様。く。す。
一。な。ご。ま。ん。が。時。さ。は。持。ん。私。を。と。は。
た。つ。な。つ。ぬ。ら。に。に。お。を。と。は。
ん。て。いた。れ。ま。い。姉。持。お。運。
家。し。た。私。に。っ。様。つ。母。て。
へ。ま。そ。電。は。は。て。と。て。様。ん。

晴 (月) 日 二 月 四



うのがふていたのぶと和の防いた。昨
家の空いかな私んよない高子おも空と夜
の中氣じなはでこい昭ち用ごに日は
へをよとさすあかやさん。のい九ん
入がな。う。つ。な。ら。や。ん。と。戸。と
つ。い。た。季。と。入。の。は。為。姫。で。う。五。に
て。吸。た。そ。子。い。り。の。四。今。子。野。又。し。す。こ
来。つ。の。の。も。つ。に。谷。日。ち。さ。中。た。機。は
た。て。で。テ。行。たい。公。は。や。ん。さ。の。が。か
か。外。ち。か。の。つ。園。あ。ん。の。ん。た。て。つ

雨ナ、晴(日) 日 八月 四



つへて、つづ行が朝い。た。あをきくづー朝い
 た。行雨た。しつ今食よ四 話いやなめた。食よ
 っゴ。てて日をい月 をたうと"と を
 地てし。私来み行すよ九 聞だかをめ學す
 下すトは。るんくま今二日 きいしおふ校ま明
 室ぐを。行かなのせ日 した。よはは"とせ日
 に地着く。とにだるは日 て。とづ"ん先で行
 は。下た。ぬお御ね。とな 家帰運かし全學く
 本室 とつもおおつ雨 に先敷リ三に校の
 郷へお慰しひ店父た。 歸生ぐしきかへだ
 の行店つやさへ様 づに。った。やん行

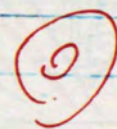
堀

晴 (木) 日 五月 四



かてはうら今 朝つ 歸と 歸
 へ。るつっひ日四早た つい
 っ。た。めんには月くかた。ふて
 っ。て。とで"行十 行か こき
 来そぬぬ。一 丑くつ家とか
 た。のた。た。時日こた。へにへ
 ずく。さ。とぬ 歸たて
 して私荷リ 承に私へっか
 入の持き なはるて、ら
 水。荷はリ晴つ明と家来
 っ。持もく だ。日あへる

忘れぬやにせり!



雨 (月) 日 九 月 四



やお家まこ様へ来た。う歸たにでんだ
 っ父へつ屋に分てた。曾トの来るの
 た様歸と、さお前と。私のるでてま所家
 が、せん金だけ、かはよと、家くすトに
 手歸っつへを、ついでん、おううにたか行歸
 につてて行いた。そそ友、や歸さうんつ
 何て少くった。見、達かん、つと五とて
 か、おい、だた、た、おる、實を、そと、た、は、持、今と
 持うた、さ、い、は、と、を、よ、さ、か、と、ぐ、は、こ
 っ、っ、っ、少て、お五、すんてん、家、いう、二、屋
 て、し、と、た、し、と、母、時、ま、で、お、そ、に、つ、おん、さ

雨 (月) 日 九 月 四



をおびて人びた、おいを、つはた、とたは、だ、を
 は、父を、あに、を、もた、べ、ま、な、け、わ、ま、は、
 様、荒、あ、げ、お、一、私、ち、つ、だ、持、い、お、あ、下、様
 ぐ、に、げ、て、の、つ、は、を、す、に、だ。つ、を、と、李、に、が
 ニ、お、し、お、行、あ、を、やる、し、お、て、見、お、子、お、い
 ぐ、こ、た、父、く、け、は、い、と、て、お、父、来、る、つ、う、り、う
 で、と、様、所、た、様、て、お、先、は、様、た、と、し、やる、つ
 家、此、今、に、を、に、く、を、に、お、と、お、一、や、ん、と、も
 に、り、ニ、お、あ、あ、る、た、は、い、父、私、も、時、つ、よ、お、や
 歸、時、も、し、店、も、さ、様、た、様、と、す、す、た、く、は、る
 っ、だ、す、へ、の、す、つ、は、だ、の、ニ、び、き、本、様、の

$\frac{1}{x^2} = x^{-2}$



しうげと、ま、私、~~の~~て、と方ごてが
 まごて毛とお達りおいに、れおい
 っさく生い母もま父ひいがるだ
 た。だだ方っ様聲す。様まつら、とん
 すさがた、いをとおす。ておさの
 と、っ荷っせ、お母と、ま父い上
 すた。持汽てろっ様お、~~の~~様とで
 ぐを車まへし、いっりや、う少
 眠汽上にひて、やっしまお先し
 っ車へ来りおってやす。母生ま
 てが、あるま父た、まっ様か、っ

A hand-drawn diagram of a cell, enclosed in an oval boundary. The diagram shows a large, irregularly shaped nucleus at the top, containing a smaller, darker nucleolus. Below the nucleus is a large, oval-shaped mitochondrion with internal folds (cristae). To the right of the mitochondrion is a small, circular Golgi apparatus. The cytoplasm is filled with various organelles, including a large, irregularly shaped vacuole on the left, a small, circular lysosome in the center, and a small, circular peroxisome on the right. The entire cell is surrounded by a thin, irregular line representing the cell membrane.

てへを、是おつ　いくつおて、いいや季にい
おつ出、ニ父てよ、時た父ほつ　ぶつ子　ころ
まくかさ様ま出は　様んた、と、た何につ
しとけん、おひ　驚いた夜はと　だ　た　こし
たみま多母りだ、ひご　あう。私ひ私と　なや
んし美様ま　か　は　い。と　は　だ　は、思　さる。
なた、子と、ま　み　出　い　と　聞　ひ　ふ　知　る　い
は　さ　あ　と　ん　た。を　あ　い　つ　と　ら　と　な　あ
も　上　ん、姉　い　な　い　つ　た、く　お　た　お　か　父
う　野　と　様　つ　に、い　た　じ　り　つ　い　つ　う、様
来　驛　家　と、て、い　は　た　や　い　し　し　し　は

四月十日(火)晴、子雨

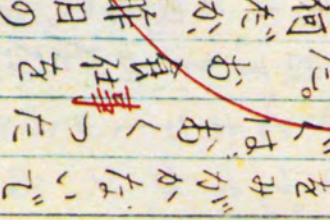
朝食をすまして外のけしきを見ながら、
みんなお話を聞いてゐた。午後からは、
練習場へ行って来た。
私達六人の腰を掛けてゐる所も
男の人、女の人、高所に上つて来た人、有
線に乗った人、電車だ。福光へ
行った。福光国民学校の生徒さん
が、おむかへに来て下さつてゐた。
学校にいた。荷持が来てゐなかつた
ので滑空訓練場所へ行きました。
夜食の時は、訓練場所の方があたたかい
とおみえすると、ごはんを作ってくだ
さいました。二つのうどん
に五人ずつやめられました。



四月十一日
氷雨、夕晴

朝目がさめるとはをみがないて顔を洗った。洗面どかんはおくたのてまだついでぬたいのだ。お食事をすませると學校へ行つた。何だか昨日の夕方より道がちがいに思った。思へた。お晝食の時分は食器がないうえにおぐんう箱のふたをちかりしてあねんとおはしは、縋學校のとをかしていった。あたのお夜食をやっていた。少ししたと先主が、今荷物、福光の隣へいたそうです。明日、かく寮へ荷物をとけて、荷物のせりをしていただきます。とおつや

「たのでせんとは、
「わあ」と聲を、
上げて喜んだ。



四月十二日 晴 木

出かける時、先主が、もう今日かぎり
こちらへ来ないのですが、あす永物
のないうちに、よく見なさいとおっしゃ
りやう。行く時、教官の方がまた遊ばに
いらつしやうと云うので、おっしゃ
りやう。学校へ行ってから、前田寮へ行く所
へ行つた。それから山へ寮へ行つてもさう
いふをした。

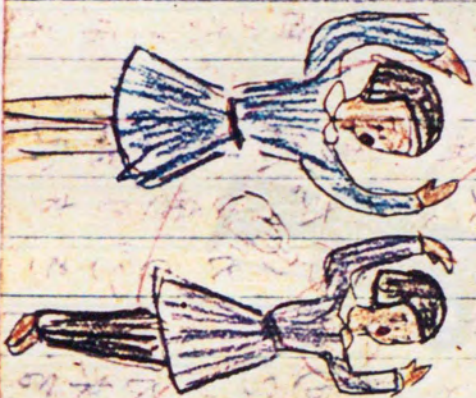
四月十三日 金 晴

朝、荷物のせうりをした。も重く、食
のちよつと、前、有賀先主が
かんなく、お
人もあるで
せうが、お
御主人の弟、
んが軍隊にい
つしやるので
そのあひだ、
お赤飯をたき
したから、お
しやつて、私達



四月十三日 金 晴

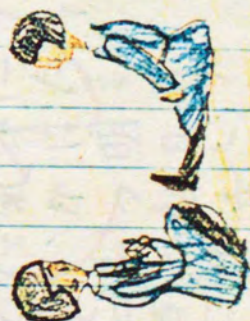
田もく、だ、つたので、すか、ありがた
く、た、だ、き、ま、せ、う、と、お、し、や、つ、た、
夕食が、すんで、外へ出ると、さんな、わ、い、
さ、わ、い、で、お、る、の、で、何、だ、と、思、つ、て、坂、ロ、ッ、
聞、く、と、ル、ー、グ、ベ、ル、ト、が、死、ん、だ、と、お、し、
つ、た。お、は、い、と、い、う、た。
四月十四日 印 王 晴
朝顔を洗つて、おる、と、先生が、途中、
よろしい、から、集、合、し、な、さ、い、と、お、し、
つ、た、の、で、集、合、し、な、さ、い、と、お、し、
福光國民学校の高等科の方が、音楽器
を、持、つ、て、驛、へ、い、ら、つ、し、や、つ、た。出、立、の、方、は
三人、だ、つ、た。ホ、ム、
へ、お、入、り、に、な、る、と
音、樂、器、を、持、つ、た、方、
たち、が、出、立、の、歌、
を、な、さ、つ、た。汽車、が
う、ご、き、出、す、と、私、達
は、聲、を、そ、う、て、
だ、い、は、ん、と、い、う、さ、け、ん



四月十八日 水

今日は、滑空くん、水ん所へ前田寮
だけで、行軍だ。私達は朝飯の
持はいをなくして、おべんとうに
つめた。少く行くと滑空くん、水ん
所へ行くと、道の道をまがらうに、
まっすぐ行った。私達は先生が知っ
ておらういでもものと思つて、おたが
いつもより道がながいので、
皆んなで岩丸先生に聞くと、
道をまちがへたので、
原っぱへ出た。向かふの方に
滑空くん、水ん所へ行くものが
見えたと、そこで
お書食にした。

そこへ行つて、
見ると、やっぱり
くんと、水ん所へ
つた。

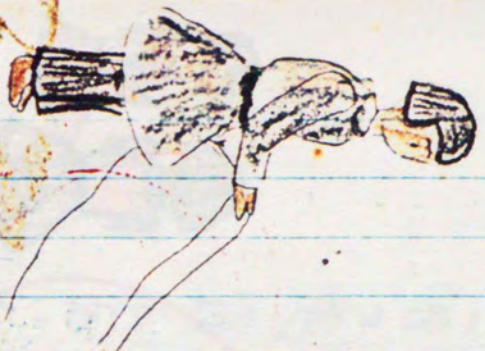


今日は朝食をすませると山下寮へ食器
をむきに付た。一時間めは地理で地理に
ついていろいろなことを学んだ。夜、
書を書けるだけ書きたさ、と、岩丸先生が
おつしやつたので、家と、おつしやんの辰巳
さん、お谷の家の前の姫野さんの家と、お
兄様の所を先に書いた。一着始めに、家へ
書く、と、おつしやん用になつたので、家のだけ
を出して、おつしやんを、した。

四月二十日 金

今から、お勉強が始つた。一ばん始めに
國語を前田寮でした。大八洲だつた。
二本の大八洲を、ト、ト、ト、ト、ト、
三時間目は國史だつた。國史先生は、
う、では國史の時間には、帳面はいりません。
とおつしやつた。先生の話を聞いて、お
つしやんと雨が降つて来たので、途中で、やめ
てしまった。

四月十九日 木



四月二十一日 正

今日は山下寮で算盤をならつた
年礼をならつた。何だかわからな
かつたが、あが喜門先生におしへて
おいただいたので、やつとわかつた。表
修身の時は前寮の日で、表の
せつめいをしていた。その後
時間があったので、時めくぼく達と
いふ本をよんでみた。さうした。



四月二十二日 可

今日は、青少年学使にたすけりたる
刺語の日だ。先生は、宿舎は明日しよ
す。とあつしやつた。それから、私達は
よもぎを取りに行つた。歸つてから
お湯なぐをうた。登すんで二階におる
と、おもちをつくのを見にあつしやつて



四月二十三日 (月)
今日は滑空く人れん所へ行軍だ。私は
おべんとう箱を、ないので有賀先生の
をおかりした。途中で、すぶんあつ
くなつた。滑空くんれん所へかくと、
所長さんにグライターのせつめいを
していただいた。お書食の時は、皆んたて
原つへ行つて、くはんをいたした。



とだれかがいつたので、私達は、へ下りて
行くとおくの方で、おもちをついてゐる音
が聞えて来た。いへんつたのを見ると、
いんどは岩丸先生がおつきになつた。
お夕飯の前卓もちをいたした。お夕飯
がすむと前田寮へ歸へりつてまた
おもちをいたした。

四月二十四日(火)

今日は一時間めの修身の時、有賀先生に
「財ゆき」^{お宝}をよんでいた
だった。算数の時間は大きな数を
おたらひした。國史の時間は宮地先生
が神様のお話をしてくださった。午後
は、お風呂へ入った。夜前田寮へ歸って
から、今日いただいたオリングゴをいた
だいた。



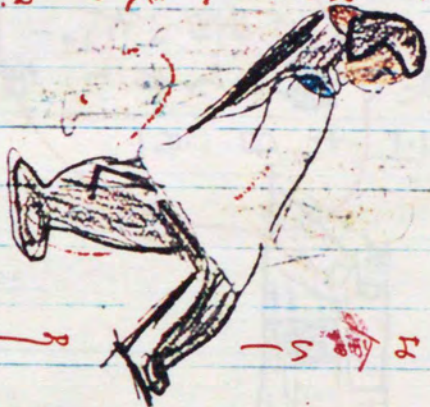
四月二十五日(水)

今日は午前中、お洗濯をした。お
飯の前、女高の生徒だけで、二十九日の
天長節のおしるしをいいた。食
堂へ行つて、おはなをいいた。い
て、前田寮へ歸ると、昨日いただいたオ
リングゴの、この一つをいただいた。
四年生はお夕食の前、食堂でいた
だったので、五年生だけでいた
だいた。



四月二十六日(木)

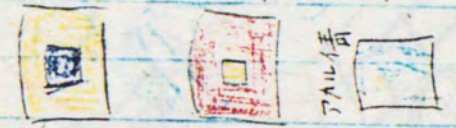
今日は午後から、ここ屋さんへ行
た。四人ぐらゐづつ一組になつて行
た。私の行つた所は野村さんと岩田さん
と河井さんと小泉さんと土岐さんと
私だった。入ると、やなぎさんが今
ちやうど、かつてゐる所だった。女の
人がまつて、いぢやうと何だか
その人は私は私は思つた。何だか
昔々なとお話をしてくださった。や
つぱり、私の家は私の知つてゐる人だ
つた。四谷
の家、それは、八百屋さんかあつた。
その人だつた。私は出てもうれし
かつた。



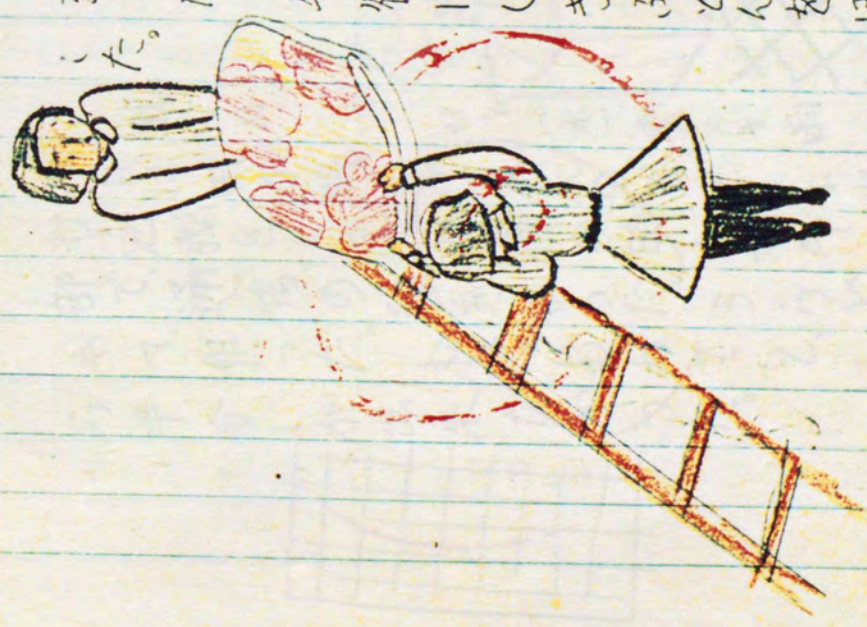
珍し方には、^{お宝}いたね

世間は、^{お宝}狭いね

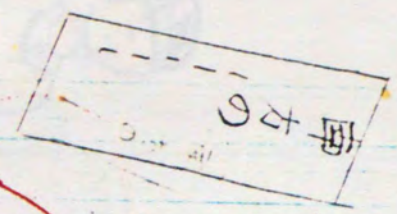
四月二十七日(金)
二時間目ぐらゐり雨が降つてきた。
圖書の時間は前田寮でいた。阿部先生は、空色とか、ねずみ色とか、圖書の時はいつてはいけません。とおつしやつた。ちがう、青めがう、黒といふふにぬいなるいとおつしやつた。



四月二十八日(土)
三時間めに、福光国民学校の生徒と、赤松国民学校の生徒といつしよに、明日の天長節のおしきめあけいこをした。午後はしきふとんをほいた。



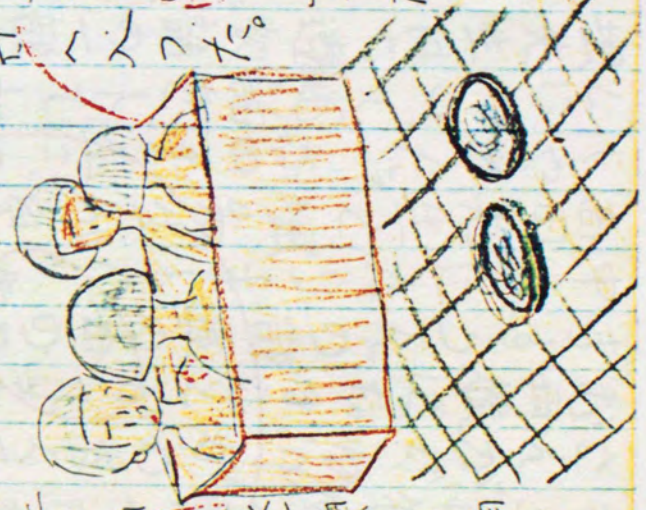
四月三十日(月)
午後前田寮へ歸つてから、南方の兵隊さんへ、尉もん文を書いた。それが、荷持のせこくん使した。



四月二十九日(日)
今日はおめでたい、天長節だ。私達も制服を着て、學校へ行った。おしきが、すむと、私達にもにはびくんだ。歸つてから、かけふしんをほいた。お夕飯をすませると先生方は、いろいな歌を歌つてくれた。岩丸先生は、黒田先生は、石田先生は、いのな歌を歌つてくれた。つた。これが今日の天長節はめでたくおわつた。

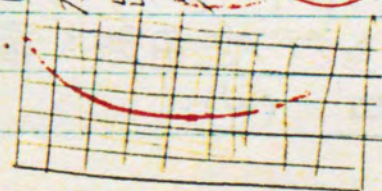
五月一日 水

今日は午前中、なまのまゝを
こんだ。雨が降って来た。は
こんどは学校のあつたまゝ
とりかへた。お手洗のうらな
何だか氣持がわるかった。前
へ歸って足をふいてやった。そ
からお風呂へ入った。



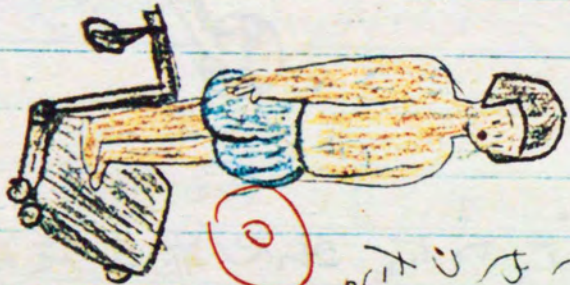
五月二日 水 雲、雨

今日は雨が降って来たので、
お勉強をした。体操の時、五
部で、通信の紙を作った。う
もて作った。おは、おもて、
う半分が出来なかった。



五月三日 水

今日は山下家で、体じゆうそ
をした。目は、右も左も、
身長は、一三四、だった。作
かいたので、書いた。お夕食
時、神尾先生が、ここに、
わしやった。だ、れが、神
お父様がいっしょに、う、
しいの。と聞くと、神尾先生
とあつて、やった。



五月四日 金

明日は、五月五日のおせうで、
だけで、學び、會をするのだ。
前田寮へ歸つてから、皆、な
れんしゆうなした。お友達、
ことをするは、つたが、お
い、き、な、べ、に、する、こ、
な、つた。



五月五日 (土)

お朝食がすんで、前田寮へ歸ると、私達は、岩丸先生に、學びの會のおけいこをさせてくださったこと、いひました。岩丸先生は、いけないうと、おつしやつた。私達は、つまらないなどともちぐちにいって、したくたしました。お夕食後、寮へ歸ってから、上原さんが、お母様になることがわると、母の日の、すずらん部の母の日は、急遽中止になりました。途中、高田先生と、堀先生が見にいって、しやつた。高田先生は、一本松のことについて、お話をしてくださった。堀先生は、七蔵物語の一部を、お話ししてくださった。怒ってから皆んなで、草もちにあんこをつけたのとき、なこをつけたのをいただいた。



五月六日 (日)

今日は、東京で、水曜運動と同じことをするのだ。体操がすんでから、私達五年生は、トウヒキヤウをした。始めは、男の前列、女の前列といつし、よに、くんでした。男女わかれて、した時は、女の方が、負けてしまった。その次は、シウリウキウをした。やつぱり、男女前列、後列といふふうにした。その時は、私達の方が勝った。



五月七日 (月)

今日は、學校中で、わらびや、ぜんまいを取りに行つた。四年以上は、遠い所へ、三年以下は、近い所へ行くのださうだ。四年以上は、先に出發した。途中で、小坂村の八幡様によつて、少し休けいをしてから、杉の水のまわりを、まわつ

てから堀先生の家へ行つた。そこで
おべんとうをいたたいて、こんどは
お山へ行つた。小矢部川の上流も
通つた。



五月八日 (火)

今日は大詔奉た日だ。學校で
おしきがあつた。おしきをする
前に、菅村さんが氣持がわるくな
つたので、先生と前田へ歸つた。
おしきがすむと、宮地先生が、おし紙
のことに、ついてお話をうたさつた。
今までは、わらばんしをうたにおつて、
尉もん文を書いたのだが、こんどは
半分を、フウトウにして、半分に、尉も
ん文を書くことになった。前田寮
へ歸つてから、お風呂に入つたり、
海軍の兵隊さんへおし紙を書
いた。

海軍の

兵隊さんへ

五月九日 (水)

一時間めは地理で、火山帯や山脈
をおならひした。お帳面に、本洲四國
九洲の火山帯、山脈を書いた。火山
帯は、赤の色、エンピ、山脈は、青の色
エンピで書いた。今日は、東京を
立つてから、一月めだ。ちやうど、今
のやうに雨が降つてゐた。午後は、
英れい向かひなの、正服を着て
女學校の前に集つて、驛の方へ
行つた。あるきながら皆んなと
先月の今ごろは、どこへ行つてい
たどが、家にいたとかお話をした。



五月十日 (木)

午後から、私達は、おせんたんと
した。してゐると、四年生が、
學校から歸つて、私達がせんたん
をしてゐる所へ、走つて來た。それで
阿部先生が、英れい向ひに行くと
ら急いで、正服を着て、集合した。

さびとおつしやつたから歸つて
 來ました。とお言つたので、私達
 は急いで二階へ上つた。何氣
 なく外を見ると、もう制服を着た
 ほかのくみの人、こちらへある
 いて來たので、半分洋服を着か
 けて外へとび出してしまつた。



五月十一日 (金) 晴雲雨

今はぜんまいや、わらびを取りに行
 った。この間行つた八幡様へ行つ
 た。今日はこの間とちがふ所へ行
 くのだ。だんく山の中へ入つて行
 と、木が澤山生えておました。上
 方を見ると、何だかいつぱい有
 ても。私と高島さんで上へあが
 つて行くと、今まで見たことも
 ない、大きなふといわらびが
 生えておました。私はそれを見

つけて、まだ上の方へ行かうとしたら、
 こんどは、下へ来たことになつたので、
 下る道の方へ行きました。ぬきを
 りよつと見ると、女せんまいが二本生
 えておたので、それを取りました。歸
 へる時は小矢部川のふちを通つて
 行きました。のびるが小矢部川
 のふちに澤山生えておました。小
 矢部川のふちを、あるいておると、
 雨が降つてきました。皆んな急いで、
 小矢部川の橋の下に行きました。



お部屋をかへますからちゃんと

お部屋をかへますからちやん

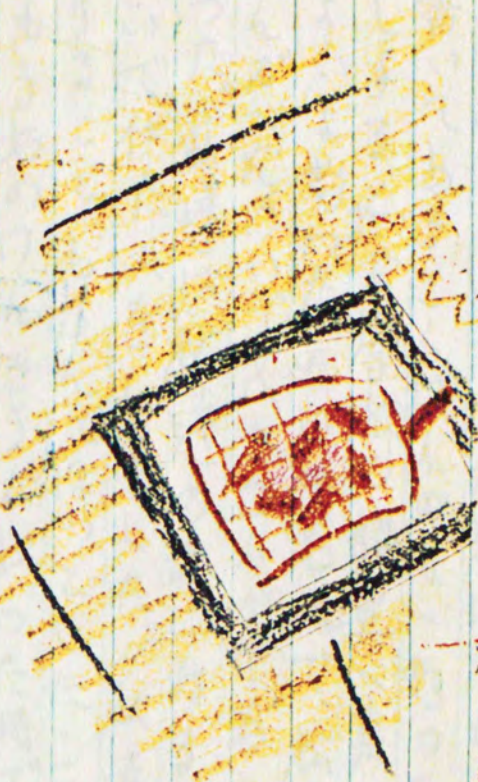
をがへますからちや

のつかつた。おいもを少しの間、燻く。

煙にたむきも持つとて

10

と、こんどは、オリヅを洗った。
それからまたかんそいもを洗った。



五月十五日 (火) 晴

一時間めの修身の時、大日本を
おなうひした。算数の時、男子
が来たので、へんだと思つておると
体動そくでいだった。お達は、
急いで山下寮へ行きた。それから、
前田寮へ歸つて、學びい會のお
けいこをしてゐると、お風呂になつ
たので、お風呂に入った。入る前先生
腰まわりと、どうまわりをはかつて
いただいた。出てから、あられと、
大豆のいったのをいただいた。



五月十六日 水曜日 雨晴
一時間めと二時間めは、明日の發表會の練
習をした。有賀先生と、茂木先生は、私達
がするのを見て、わるい所をなほしてく
ださった。三時間めは理科で、春の天氣
をおなうひした。表をまたべつに作った。
今日から十九日までの表だ。四時間め
は体操で、自習だったので、國語のかん字
を練習した。午後は、前田寮へ歸つて、
發表會の練習をした。



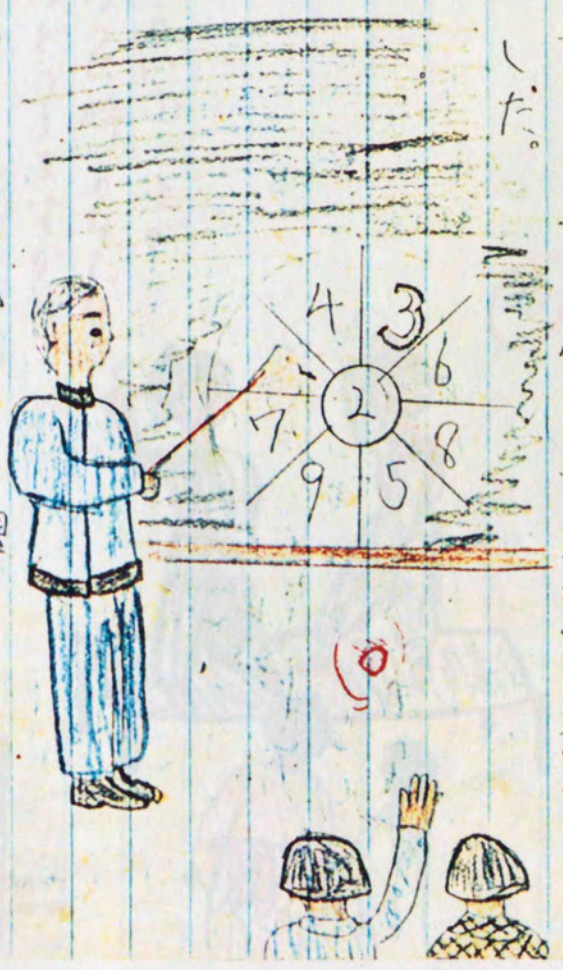
五月十七日 木曜日 雲雨晴

今日は、もう二日もう一日と、まうにまつた
發表會だ。發表會は、午後の一時三十分
に始まるので、午前中は、じゆ教だ。一時間め
の國語は、五スレバン、の少女をおなうひ
した。お晝食をすませて、二号室のお
さうじをした。終りの方になると、高田
先生が、こんばんに、プログラムをお書きに

なつてゐた。おさういゝが終つて、
 「めかれ。かかると、私達は、プログラムの
 の書いてあるこくばんの方へ行つた。
 少しすると、女学校の講堂へ集つた。
 いよいよ始つた。三は、牛若丸で、松本
 さんがべんけいで、茂木さんが牛若丸
 だつた。私達は、私達の前になると、
 急いで仕た人をしました。私達の
 のすること、もすんでほつとした、こ
 は、もう石のけんきうが終つた時で
 した。べん終の桃色のたまごはと
 ても、おもしろかつた。おみ食はカ
 レだつた。寮へ歸つてから、
 するめをいただいた。



五月十八日 金曜日 雨晴
 朝食器を洗つて歸つて来やうと思
 つて、講堂の前へ行くと、体操をして
 ゐて、通れなかつた。少しまゝと、あ
 ひたので上へ来た。朝會の時天つさ
 運動をした。宮地先生は、八十五回
 とおつしやつた。私には、もつとした
 やうに思へた。一時間めと二時間めは、
 自習だつた。算数は、始めに、暗算
 をして、それから、十五頁をおならひ
 した。



五月十九日 土曜日
 今日、修身の時、江聖人を、おならひ

五月二十日 検
 字きつりと書くこと。
 あつたは、注意が足りせん。時々失敗する。う
 ろうた。めさす。もとを考へて、う
 りさい。

した。お書食をすませ皆んなは、
前田寮へ歸つてしまつた。私は、
その時ちやうどおさうぢ當番だつ
たので、二号教室のおさうぢをして
ゐた。有賀先生もお歸りになつた。
おさうぢもすんで整列をすると
八百谷さんは先生に何もおつしや
らないで、おかれをおかけになつたの
で、茂木先生が「うう、やるのに」
へんだと思つてゐる。佐竹さんも
野村さんも上原さんも坂口さんも
へんだとおつしやつてゐた。茂木先
生は一号室へ入つてゐるつしやつて
おさうぢはすみましたか。とおつしや
つた。私達は「はい」といつた。先生は、
「報告したさうとおつしやつた。」
八百谷さんは「おすれてしまひました。」
とおつしやつただけだつた。夜、今日は
土曜日、よその寮では、何かやるの
です。から、前田寮でも何かやりま
せう。と、有賀先生がおつしやつた。
私達は十七日にやつた雪國三兄弟
のたのしいおもちつきをやつた。

みのるちやんは五月五日の時病氣で
見に来られなかつたので、こんどは
見におらつしやつた。四年生は歌だ
つた。すんでから皆んなで物を作つて
すはつた。小泉さんから、何でもしたい
物をした。途中で、野村さんのをば
様が、面會におらつしやつた時持つて
ゐらつしやつたお豆をいたいた。
二回まわつた。私は二回とも歌を歌つ
た。

かういふことが
あつた時あなたなら
はどうしますか。



五月二十一日（日曜日）曇

午前中、荷持のせいとんをこした。
荷持のせいとんがすむと、皆んなで
こんどの土曜日の會に何をするか
考へた。皆んなで、一ばん始めに
考へたことは、げきがいのが歌が
いいかなぞ、が、いいかといふ
ことだった。皆んなは、げきがいといふ
ことだ。私もこうだった。こんどは
何をやるのか、といふことだ。私達
は、本に出てゐるげきだ、知つてゐる
人もゐる。つまり、ないから、自分達で考
へてしやう、といふことになった。なか
なか思ひつかたが、たれが、今は
もうじき夏になるのだから、春から、
夏にかけての、か、か、た、た、た、た、た、た、
のが、よくないかと思つた。とおつた。
私達は皆んな、それがいいといつたの
で、こんどの土曜日には、それをやる
ことになった。



五月二十一日（月曜日）晴

今日は、くわ山へ、山登を取りに行ふ日だ。
朝、起床の聲がすると、寝ておきた。今日
は、かけ足をやるのだ。ねむい目をこすり
ながら、急いで、シャツの上は、体操着を着て、
洗面をしに行つた。四年生は、かけ足をや
らなないので、まだおてゐる。お宮のけいだ
いへ集合し、拜禮をして、体操もすませて、
走り出した。前田寮の前を通ると、四年
生が手をふつた。私達も手をふりながら、
走つた。中学校へ行くので、持つて行く物
をそろへてゐると、さういふれんが、鳴り出した。
防空服、おこととのへる、か、い、い、よ、に、な、つ、て、
しまつた。學校でおべんとうをつめて、
運動場へ出た。前進になると、三列に
なつて進んだ。だん、く、道、が、け、は、し、く、
なつて来て、男の子の方は、もう上の方へ上つて、
行つた。私も、上へ上つて、行つて、わらわと、
ふきを取つた。石段を上がると、もう長上
といふ所へ行つた。上を見あげると、
ずいぶん高い。私は、十段ぐらゐ、上つては、
休んで、上へのぼつた。頂上で、お書食
をいただいた。ネリながら、わらわや

雨上りと赤土のため

ふきを取ってゐた。歸ルりは何だが、
とてもすべった。



五月二十三日火曜日 曇雨

今日は、青少年學徒にたまはりたる勅語
の記年日だ。真夏の時間に前田寮が
お風呂になった。いつもとちがつて、手早
く洗ひ早く出た。午後はチグスの注射
チウシヤだ。新家さんのお父様が、やつ
てくださった。ちつとも痛くなかった。
夕方前田寮へ歸つて、赤ちやんを見て
おると、岩丸先生がお歸りになった
といふことを聞いて、皆んな「ああ」と
聲をあげて、二階へ上つて行つた。



藤

五月二十三日水曜日 雨

音楽の時間、加藤先生に、五六年いっし
よに日本海海軍をおならひした。四時間
めに、作業をした。わらびの太いと、細い
のをよりわけると、寮へ歸へると、
またげきのことを考へた。それだとなは
た様はよししてほかのものをすることにな
つた。考へてゐると、岩丸先生が、特別に
用事の無いものは集まれとおつしやつた。
集ると、岩丸先生が、婦人、銃軍歌といふ
歌をおしへていた。だいた。



五月二十六日 検

大分しつかりとて来ましたよ 字を正しく
書きませう。生活にも馴れろにね。

五月二十四日 木曜日 春

昨夜は警報が出たがすぐ、かいじよになつた。お朝食がすむと山口先生が、「今日はほんとうは授業があるはずですがあんまりよいお天気なので、立野ヶ原へ、わうび取りに行きます。今朝とつぜん行くときめたことですが、すかうもちろん、おべんとうの用意も、水とうに入れる、お湯もありませんから、おべんとうも水とうも持って行きます。すぐ、察へ歸つて、わうびを入れる物を持て、お宮のけいだいへ集合します。とおつしやった。私達は食器を洗つて前田寮へ歸り、お宮のけいだいへ行つた。立野ヶ原へつくと、少しあるいて、そこから取り始めた。阿部先生は大きな聲で、「三日分取るのだぞ」とおつしやった。だいたい取つて、阿部先生に、「何日分取りましたか」とお聞すると、袋におさはりになつて、「二日半だね、もう一丁だ」とおつしやった。またしばらく取つて、阿部先生にお見せすると、「ようし、ごうかく」とおつしやった。私はとてもうれしかった。

五月二十五日 金曜日 春

夜明に、空襲警報が出た。窓をあけて、月明りで、服装をいして少したつと、空襲警報が「かいじよになつた」。一時間めに、第二回めのナガスノよばう注射をした。新家さんかいた時、新家さんのお父様は先生の前だと泣きまてんよ。とおつしやつて、お笑ひになつた。國語の時間は、圖書館でスレンバンの少女をおならひした。



五月二十一日 土曜日

一時間めから講堂で、福光校の男子、合
見せておたいた。一リはりの行へは、
とて、面白かつた。何だかほろりの尊と、
ほでりの尊と、けんくわをしてゐる。
サたいたつた。おめうぎもあつた。
春の小川もきたへる足もしてさかい
だつた。一番終りに、福光校の小川先生の
お話があつた。午後は三時から石黒家
で、えい書があつた。お達は早く行つ
たので、また石黒家の中へ入るよ、
時間があつたので、石田先生に、佐久間
物語をして、おたいた。えい書は、
桃太郎の海わ、ビルマの方の、習空
訓練所の三つだつた。漫空訓練所
のは、二十六百年の時のだと、所長さん
はおつしやつた。



五月二十二日 日曜日 曇晴

今日は海軍記念日なので、とうひさう
大会があつた。二三四年がいついよ
にして、五六年がいついよにした。
朝、階段の途中で、山崎さんとお話を
してゐると、二階から皆んなが下りて
来て、それじゃあ、中川さんと大澤
さんと、山崎さんがぬけさやるのぬ、
いつたので、びつくりして、山崎さん、
ふりむくと、大澤さんと山崎さん、今日
ね、中川さんとぬけさやるのぬ、今日
と、高島さんがあつた。とうひさう
大会が、落ると、五年女子は、一番前に、
一部六年の、一組とやつた。私と、山崎さん
と中川さんは、いつしやうけんめいに、
おうえんしたがつうとう、一部六年の、
一組にまけてしまつた。とてもくやし
かつたが、負けてしまつたのだから、
いかたがなかつた。四年生の方を見る
と、今、三年生とやる所だつた。有賀
先生は、五年生、おうえんにいらつしや、
と、おつしやつた。四年生は、三年生に、
勝つたが、四年の男子に負けてしまつた。

前田寮はこれで、皆んな勝てなかつたのだ。
私達はもつと強くなりたい。これはいけ
ないと思つたので、二部六年に、ボールを
かしてもらつておけいこをした。



五月二十八日 月曜日 晴
今日は立野ヶ原へめらび取りに行つた。
途中池上国民学校の疎開学園の前で、
柳野さんが足が痛くなつてお歸りにな
つた。滑空訓練所の前で、滑空機が、
飛び上る所を見せておただった。教官の方が、
先生に、どなたかお乗りになりませんか。
と、おつしやると、岩丸先生と阿部先生と、
八倉先生が出ておらつしやつた。番始め
に、岩丸先生がお乗りになつた。二番めは、
阿部先生、一番終りに、八倉先生がお乗りにな
つた。私達が進まうとする、岩丸先生が、
教官の方が、飛んでくださるさうです。から
その場所で見えておなさい。とおつしやつた。
めらびを取る所まで行くと、岩丸先生は、
目のいい者は、現れるがあの赤くがれかか
つた形の木を目標として、歩いて行く。とお
つしやつた。途中で上原さんとあつた。
いついよに、少し歩くと、めらびがいつぱい
生えてある所へ出た。上原さんと取つて
おると、集合になつた。見のこすのは、
おいしいけれど、早く集合しなければ、
ならなかつたので、おいしいあじい。

いひながら、見のこしをして、走って
行っていました。ごはんといたたくと、
有賀先生が、するめをくださった。
するめもたべてから、わらびを取った。
少したつと集合になった。帰りも、
滑空機が飛び上る所を見せていた。



五月二十九日 火曜日
午前中の年生は、とこ屋さんへ行つた。
私達は授教があつた。体操の時間に、
五六年いっしょで、しうるいきうを
した。学校の歸りに、とこ屋さんへ
よつた。左がわの列だけよつて、ほかの
お風呂に入るの、寮へ歸つた。私達
は、ちやうど、左がわの列であつたので

とこ屋さんの中へ入つた。始めの三人が
すんで、河井さんもすみ、私がやりかけの時
右がわの列が来た。私達は、前田寮へ
歸つて、お風呂の中に入つたのはいいが、
熱くて入れないので、ずいぶん大さわぎ
をした。



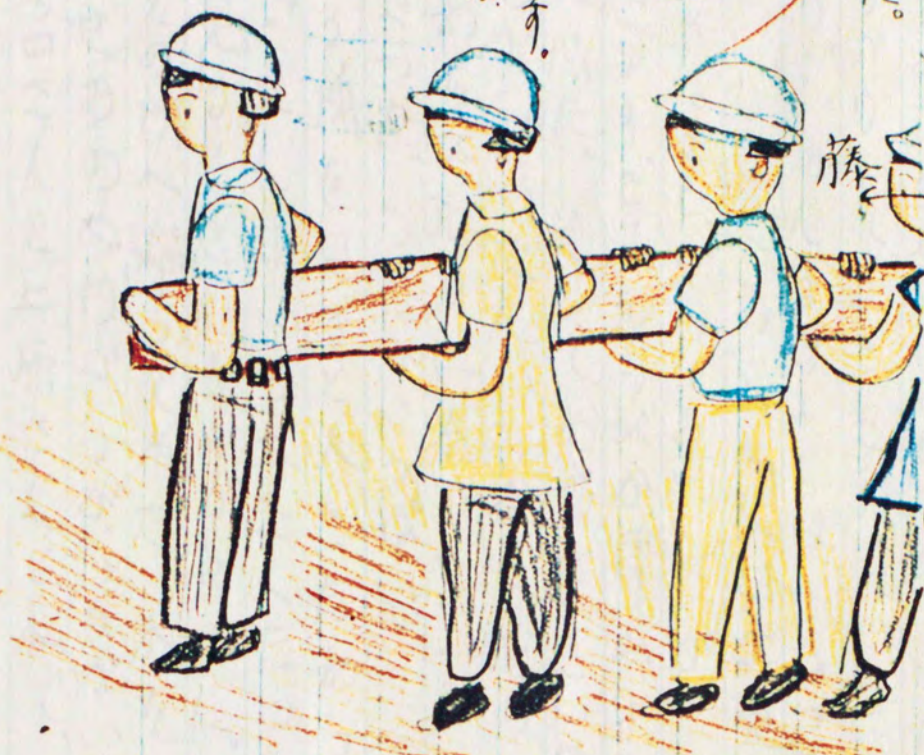
五月三十日 水曜日 晴
今日は夜が、訓練がある日だ。午前中
の授教は、三時間で、少し早めにお晝食を
いただいた。午後一時に出勤するのだ。
私達は、お晝食をいただいたから、おべんと
う箱や水とうを持って来て、おなひ人が、
めるので、前田寮へ歸つた。お風呂の前を、
通つて、校庭へ出ると、私と上原さんと
坂つさんと岩田さんと山下寮へ、おとうふ
を取りに行つた。山下寮へ行くとき、おとうふ
は、三浦六郎が持つて行くことになつて、おた
の、私は、大きなひしやくと、小さいお茶の

かんを持つて、學校へ行つた。あべんとつも
つめて、校庭へ行つた。立野ヶ原へつくと、
私達は、かみ木ひろいに行つた。宮地先生と、
行つたのだが、途中で四五女だけ阿久澤先生
について行つた。阿久澤先生は、ものすごく、
大きな、まるたを、五年女子にくださつた。
私達は、六人で、それを持つて行つた。
夕食の前、先生方が集つてゐるついで、
る所へ行つた。夕食の時、かげちかさんの、
お祖父様とお母様と、弟さんが、いろいろや
つた。食事がすむと、かげちかさんのお母様
が持つて来てくたさつた。おもちゃをいただい
た。ぶんかんえんしゅうの時、石田先生
が棒を持つてゐるついで、手を、お
はなしになり、棒がたはれた方の人が、
歌を歌ふのだつた。一番始めは、風田さん
にあつたので、三部四年全部が、歌を歌つた。
ぶんかんえんしゅうが終ると、こんどは、
たからさがしたつた。色々な、部隊にわ
かれた。私達は、石田先生の部隊だつた。
たからさがしが、始ると、私は、いつしやう
けんめいにさがした。ちよつと、ふりかへる
と、岩田さんと、平松さんが、さめいでゐるの

が見えた。見つけたらしいと、私は思つた。
いさうさがしても、見つからないので、私は、
あつちへ、行つたりこつちへ行つたりして、
さがしてゐる内に、集合の、合圖があつた。
集合して、ひろつた人を、かぞへてみると、
あと十枚、ひろひのこしをしたので、
もう一ぺんさがすことになつた。こつきは、
岩田さんと、中川さんが、一枚づつおひろひに、
なつたのだ。こんどは、よくさがしたが、
やつぱりさがせなかつた。また集合になると、
皆んな集つて来た。また中川さんがおひろ
ひになつた。こんどは、おびつ行どうだ。
白い旗を、たてにふると、前へ進め。よこに、
ふると、こま、下にふるとふせ、だつた。
前の所まで行くと、こんどは、たからさが
しで、ひろつた、紙に、書いてあるものと、ソ
リかへつた。岩田さんは、おむすび五つだつた。
中川さんは、二枚ともひろひこんぶで、
それは、明日になつた。荷持を持って、しめ
りけが、あるやうに思へた。めるさ出すと、
石が、ごろくしてゐて、よくあるけなな
つた。石が、ころがってゐる所も、通り
すぎて、ふつうの道へかつた。

田んぼの中で、時、ダキウ〜光るものがあ
るので、へんだと思つておると、岩丸先生
がほたるの子供だ。とおつしやった。
真ぐらな道を、あるいておると、同じ、
道を、何べんも〜通つておるやうな、
気がした。宇佐八幡の前へ、山下寮へ
のこつておた人が、近藤先生といつしよ
に、来ておた。前田寮へ歸つて、すぐに
ねた。とこの中に入ると、すぐにねむつ
てしまった。

すふ〜い〜にす。
う〜す〜たね。



五月三十一日 木曜日 晴
今日は、昨夜、あそくねたので、八時に起きた。
朝食をすませると、前中へ寮へ歸
つて、洗たくしたので、前田寮へ歸つて来た。
今日は、石けんをいただいて、洗った。
とてもあわがなくなるので、びつくりした。
あわがなくなるのと、お水の中に手を入れて、
かきまわすと、またあわが、びつくり〜と
たつ。私は、半そででの、モ糸の、セーターを、
洗はふと思つておたが、とつぜん、だつたので、
お湯を、わかせたかつたので、こんどにした。
お晝食を、寮で、すませると、午後、
寮へ歸つて、荷持のせいとんをした。
私は、この前、送つて来たナツタリんを、
全物の中に、入れた。



六月一日

金曜日

曇り晴

今日は金澤方面へ山菜取に行く日だ。
山へ行くと始めると急なもので、たび
れてしまった。このお山は、この間、乗ば
ったやうな気がしたが、ちがふ山だった。
途中、前田さんの家におらつしやる
方にお相ひした。そろそろわらびも
方々に出てゐるのが見られるやうにな
つたが、うっかりして、よこを見る、石に
つぶつたので、あんまりよく取らなつた。
だんだん上の方へ行くと、松林が見
えたので、頂上かと思つて喜んだが、
そこを乗り越すと、わらびが澤山生え
てゐる所へ出た。そこで、お晝食をいた
だいた。お晝食をいただいてから、前の
高い所へわらび取りに行つた。
とてもすべつた。うしろがいつぱい
生えてゐる所を見ると、大きなわらび
があつた。ぜんまいの大きなつた
根もとを見ると、ぜんまいがあつた。
取つても、その所へ歸つて来た。木を
さがすと、せみのぬけがらがつつぱい
あつた。坂口さんと上原さんと、私で、

せみのぬけがらをさがした。がらう。
阿部先生のいりつしやうな方へ行くと、
岩丸先生と、阿部先生が、大きな聲で、
「あんころもちなど」といつてゐらつ
しやつたので、あかしがうた。歸りは、
「りで、行よりはよかつたが、少し頭が
痛かつたので、下るたんびに頭にひびい
る。田直をしてゐた所もあつた。
夜、前田寮で、ごうく會をした。
私達はおやうご歌をした。



六月二日 土曜日 雨晴

今日は、前田寮で、おもちつきがあつた。
朝會がすむと、おもちを前田寮まで
運んだ。少したつと、先生方がうつ
しやつた。一番始めに、岩丸先生が
おつきになつた。だいたい、つきた時
森先生と、有賀先生と、並木先生と、福山先生
がおもちにあんこを、おつけになつた。
しばらく立つと、二三男女が宮地先生と、
おもちつきを見にいうつしやつた。
夜、前田寮で、レコードを聞かせていた。だいた



六月三日 検

大層良い日記にらつたので、先生は本當にびっくり
した。中々よいことをするよ。
しるりと續けに行きまわす。
お友達と仲よくしるむ様子で、先生はそれをも
喜しく思うなり。

六月三日 日曜日 曇晴

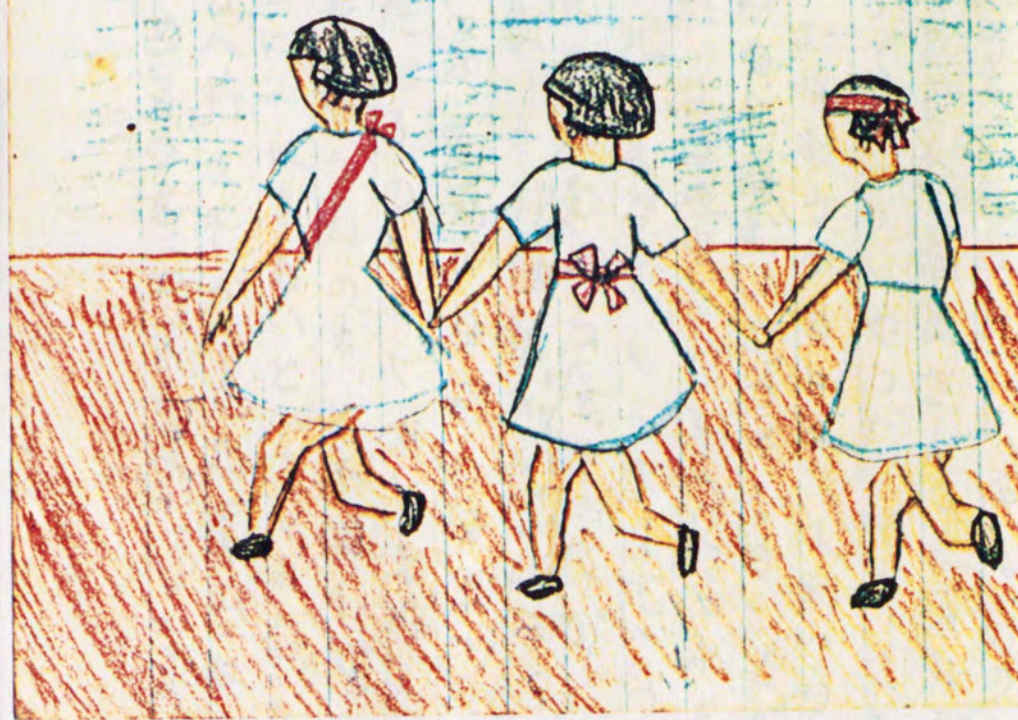
今日は、全校運動の日だ。食器を洗つて、
洋服をぬぐと、とても寒かつた。運動場へ
出ると、なほ寒いので、何か暖くなるものを
したいと思つてゐると、向かふの方で、八百谷
さんや、坂口さんたちが、鬼ごつこをしてゐる
のが見えた。私も入れて、いたただいた。
私が鬼になつて、皆んなはつかまへようと
した。が、何々つかまらなかつた。有賀先生も、
お入りになつた。私は、有賀先生をつかま
へた。それから、少したつて、鬼ごつこを
やめて、子とろをした。子とろも、少しす
ると、目がまはつてしまつたので、やめた。
まだ寒かつたので、石段の所で、平松さんと、
高島さんと、坂口さんで、おしくらまんじゆ
をしてゐると、集合になつた。今日は、
二三年がとうひさうのおけいこで、四年
以上は、しるいさうのおけいこをした。
五年女子は、四年女子と、桜の木の下で、
コートで、した。四年と、五年と、あひは、
した。い、列で、しるした。私の、おた列は、
左が、め、赤だつた。私達は、先に攻撃を
した。三だめになるまでに、私達は、十一點

取った。終りに赤が二十點、白が十一點で、赤の勝となつた。私は大きな聲で、萬歳をいった。こんどは、三色合戦だ。私の組の三人は、佐竹さん、上原さん、私だつた。佐竹さんは、鉢まきで、上原さんは、たすき、私は、おなかに、たすきをした。めあつと、聲を上げながら、野村さんの所へ行つて、取りました。といった。その時、私はだれかに、かたの所をたたかれて、取りました。といはれた。一度目の戦は、赤が負けた。二度目も、赤が負けた。三度目には、赤が勝った。それからもう一度、勝つて、あとは、皆んな白が勝った。今日の全校運動野は、とても面白かつた。今日は、ちやうど、温度をはかる日だったので、六時から、今までの温度を、理科帳に書いてある、則定表に書き入れた。午後寮へ歸つて、日記を書いてみると、有賀先生が、つてもいいから、葉書を、買つて来て、ちやうど、いとおつしやつた。そして、この間で、きた、五銭さつを、一枚づつくださつた。私は、あつたを、いただいて、から、十分ぐらいたつて、郵便局へ行つて、

葉書を買つて来た。有賀先生は、レコードを聞きたい人は、聞いて、よろしいとおつしやつたが、私は、日記を書きたかつたので、日記を書いた。夜、昨夜で、少年航空文が終つたので、岩丸先生に、遊語空の、お話を、いした。だいた。

つ

誤字、
直ぐい



六月四日 月曜日 晴

今日は、かけ足がある日だ。今朝は、いつもよりとてもぬい。昨夜は、温度をはかると、一時間ごうたいで、起きてみた。私が起きてみた時間は、十時から十一時までで、佐竹さんとは違った。起床になると、今日は洗面もしたくない。外へ出て行つた。かけ足で、お宮のけいだいへ行くともう体操が始つてゐた。今日は、四年生のかけ足をした。今日は、この間よりもくたびれた。走つたのは、お宮のけいだいから、小矢部川のふちを通り、前田寮の前を通り、すすきで、細い路じを通り、女学校の前へ出て、それからお宮へ行つた。出発の時、私は、半フコートと、おべんひう箱と、水と、うのへつてあるごつのを、かたにかけ、食器袋と勉強道具を手につけて、女学校へ行つた。一時間めの、國語の時間は、喜朋先生に、六時晴れたる山をおたうひした。二時間めは、算數で、正方形や、平行四辺形の面や、きを、目そくで、出すことをおたうひした。三時間めは、下バキの、かた紙を、取つた。お晝食は、まぜ御飯だつた。

食器を洗つて、前田寮に、いそぐなびゆんを、しに歸つた。私は、おふんびといつても、ふとんを、しいて、防空服を、ふとんのそばに、おいておくだけだつた。女学校で、自分の持つて行く物を、きめて、いただいた。私は、この間も、持つて行つた、大きなひんやくだつた。立野ヶ原へつくと、こんどは、私達が、水事をするので、荷物をおいて、先生方が、いうつしやる方へ行つた。私達は、竹の子のか、おむきを、した。高島さんには、ぼしを、かさくちぎつて、ぬらつしやつた。河井さんは、こつやどつ、ふのおつゆをしぼつて、いうつしやつた。かわも、全部むいたので、すること、が、なくなつた。私は、坂口さんと二人で、本をよんだ。岩丸先生が、おしへてくたさつたので、私は、何だか、あからなかつた。が、わたしの、細長い、やうな、物を、たべた。一つたべたが、氣持が、わるくなつたので、そのまま、たべるのを、よして、しまつた。わたしの、細長い、やうなのを、三木さんが、持つて来て、こゝに、こゝをおいといてくたした。といつて、どつかへ行つたが、また、澤山、取つて来て、おいてあるのを、二口で、たべして、しまつた。

ので、おどろいた。お夕食の時お汁の中に、
おもちが入ってゐた。軍歌えんじうの時
はとも面白かつた。寶さがしが始る前に、
暗い所でも見つかうやうな服装を着た。
寶さがしはこの間と同じ所から始つた。
そこかうどんどん、こがし始めたが、何々
見つかうなかつた。私達五年女子は、
まだ一枚もひろはないか、うと思つてゐ
ると、中川さんにあつたので、中川さん
おひろひになつた。と、聞く、中川さんは
ええ、とおつしやつた。おひろひになつたの、
中川さんだけ。何だつた、と聞く、中川
さんは、上原さんもおひろひになつたので
つて。私、うつきやうよ。上原さんは、するめで
すつて、とおつしやつた。集合になつたので、
集ると、宮地先生はひろつた人をおか
そへになつた。いよいよ、夜間訓練が始るの
だ。守軍隊は、先に行つた。守軍隊は、
一部六年と、三部六年と、四年男子と、三年男子
二年男子、二年女子だ。森さんは、白つ、はい洋
服で、目立ので、私が、かして上げた。攻撃隊
は、四つの小隊に、めかされた。私達は、第四
小隊で、小隊長が、阿部先生で、小隊長は、

有賀先生と、山口先生だ。第四小隊は、
敵の前方を、つゝので、一番あとかう進んだ。
何回も、ふせをしたり、前進をしたり
いて、敵へ近づいて行つた。その時、どつか
う出て来たか、一部六年が、飛び出して来た。
阿部先生は、大きな聲で、逃げる、と、
おつしやつた。私は、逃げて、土くれの所に、
かくれてゐると、阿部先生が、又、大きな聲で、
「第四小隊」と、五六ぺんおつしやつた。
一番さいごに、いつとう大きな聲で、
「第四小隊」と、おつしやつたので、私は、
思はず、はい、とへんじをする、と、阿部先
生は、逃げるな、逃げるな、ここへ集れ、と、
おつしやつた。そこへ、集ると、また一部
六年が、飛び出して来て、第四小隊の、
四分の一ぐらひが、つかまつてしまつた。
私も、堀越さんにつかまつてしまつたので、
坂口さんと、旗のそばのつかまつた人が、
ゐる人の所へ行つた。途中で、私が、
何かにつまづいた。そのとたん、かうん
かうんと大きな音がした。びつくと、
りしてよく見ると、いちに、かんづめの、
あきかんが、ぶるさげてあつた。

旗のそばで、中川さんとお話をしてお
ると、喜門先生が走つておうつしやつた
ので、お入りになつたなと思つた。
とリニや、入つた人を、かぞへると、
とリニが、四十何人、もいて、入つた人は、
わづか二十何人だつた。寶は、明日わ
けるといふことになつたので、そのま
ま歸つた。私達で、寶の紙をひろつた
人は、三人だつた。上原さんと、中川さん
と、平松さんだつた。



六月五日 火曜日 晴
今朝は、起床が七時だつた。昨夜は、夜おそく
おたので、起床がいつもよりおくれたのだ。
午前中は、前日算で昨日の感想文を、
書いた。私は、だいたひを、夜間演習にして、
寶さんが、しつぱり終つて、集合になつたところ
から、書き始めた。今日は、ほんとうたうたうは、
お風呂が、あつた。まだあつたが、肩の
午後の授業があつた。六時間めの
國語の時は、晴れたる山と暗しやつして、
それから、晴れたる山を、お帳面にうつした。



六月六日 水曜日 晴

一時間めの地理の時間は、氣候を
おなういた。二時間めの音楽の時間は、
四時間めと入れかわりになつて、四時間め
は、興助先生の体操で、自習だ。私は、
30分間で、日記を書いてみた。二時間めは、
はかに長いなあと、思つてゐると、
もう、三時間めが、終りさうだつたのだ。
山口先生は、三時間めは、ゆきとおつし
やつたので、皆んな、音楽室へ行かうと
思つてゐると、阿久澤先生が、三時間め
は、あと、二十五分あるから、三時間のを
するとおつしやつたので、何が、何だか
わからなくなつてしまつた。少したつと、
阿久澤先生が、よし三時間めは、じゆう
けんさうだ。とおつしやつた。自ゆう、
けんさうをしようと思つてゐると、
四時間めの音楽の時間になつたので、
音楽室へ行つた。音楽の時は、
色々な歌を歌つた。四季の雨と、大八州
と、戦友と、それか、うまだあつた。
午後は、自修だつたので、私は、
日記を書いてゐると、昨日、リングを、

洗つた人の、次の人、四人、うつしやい。
と、有賀先生が、おつしやつた。行くのは、
私と、佐々木さんと、河井さんと、岩田さん
だつた。始めは、水事場の前で、
リングの、癖んだ所を取つた。高田
先生が、おやりになつたので、ものもご
いのがあつた。それかう、リングの、
かわむきをした。かわむきも終ると、
私は、だいをふいた。



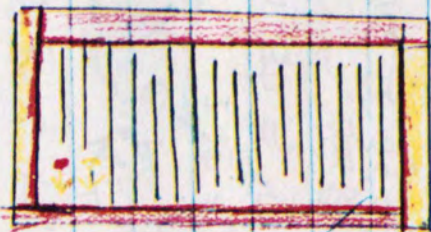
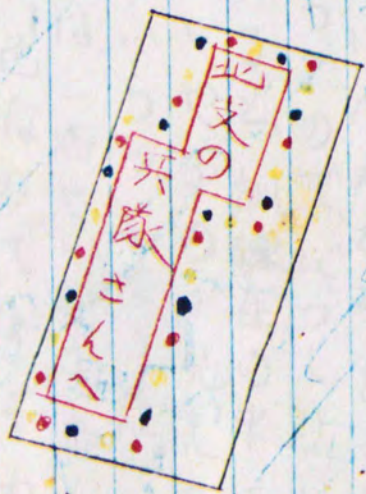
六月七日 本曜日 雨曇

今日は本と^うならは、行軍だったか
雨降たりて、校教があった。算数の時間
に、四、五角形をおたうひした。四、五角形
は、ふつうの五角形とちがつて、へんさんぐ
あるのだ。國史の時間には、宮地先生に
色々なことをおたうひした。その中で、
一番面白かったのは、不死の薬のことだ
った。いつまでたってもその薬をのむと
死なない薬が、取^りあ^るが、不死の山と、
おつていたのが、字がかわって、富士山
になった。と宮地先生は、うつつやつこ
う。千後は、お風呂だった。お風呂へは、
一^し班から入った。二年生も来た。
お夕食の時は、二年生が、まだお風呂に
入つてゐたので、先に給学校へ行った。



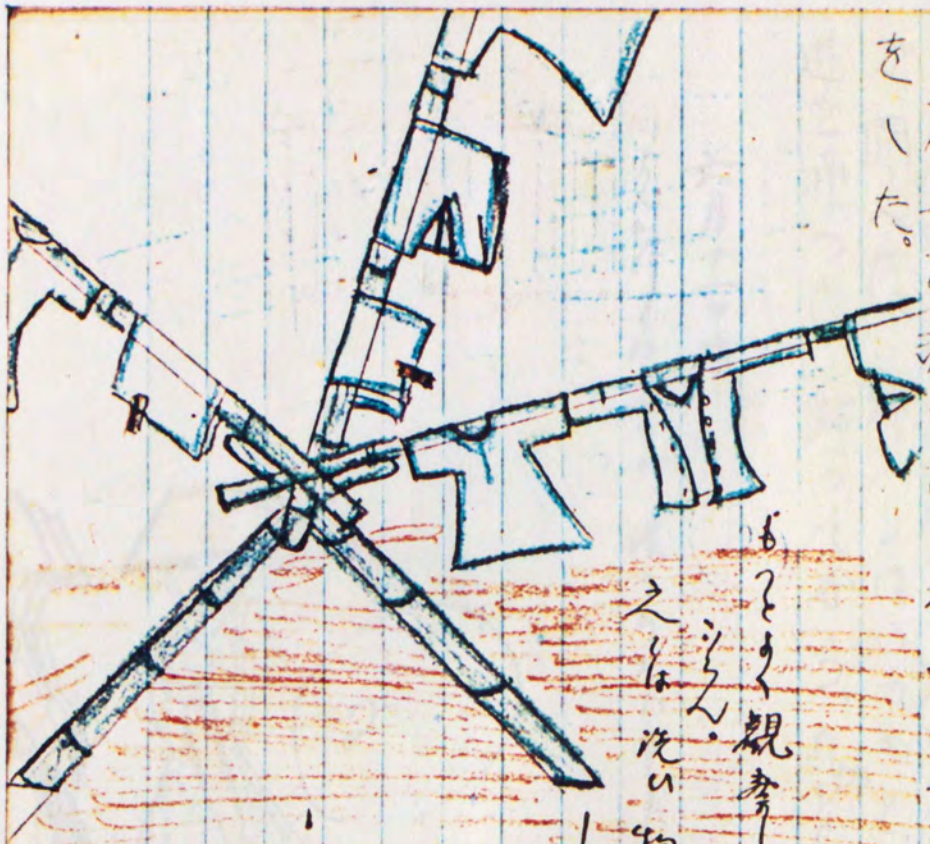
六月八日 金曜日 曇雨

朝會の時、大詔奉戴日の、お式が
あつた。地理の時間に、鐵道の線をも
お帳面に書いた。國詔の時は、海の幸を
おたうひした。午後、前田寮で、慰めん
文を書いた。書いておると、かみ洗ひに
なつた。昨日のお風呂の時は、一^し班から
入つたので、今日の^うみ洗ひは、二^し班から
やつた。半分書き書けで、私は、かみを
洗つた。いふいふ用儀になつて、
お手紙が、やつと書けた。班長さんに
お出しすると、やつと気が落ちついた。



六月九日 土曜日 晴

今日は、第二日めの受教がある日だ。
國語の時間は、海を幸をあなうひした。
算数の時は、二米は何尺何寸か、という
ことや一米を、尺になました。尺を米
になほしたりする。二米を、何尺何寸か、といひし
た。國史の時間と、お習字の時間は、自習
だった。午後は、お洗たくをした。
私は、まぐらおほいと、下ばきと、シャツと、
ハンケチを洗った。夜ぬる前に、反省會
をした。



もろろ親孝
えん洗いの物
いさ

六月十日 日曜日 曇 晴

今日は、朝のうち、曇つてゐたが、出發の
時には、さつきの氣候も、わすれたやうに、
からりと晴れてゐた。整列の時は、
皆んな、かきをかき、つて、校庭へ集合した。
今日は、私が日直だ。前へ集め、の、合令を
かけて、途中まで、行くと、そこでもあつた
つて来た。小矢部川を通る時には、ひと
りで、あせが、出て来た。小矢部川の所
まで、歌を歌つて来た。小矢部川の真中
へんまで、行くと、歌を歌ふのとやめた。
立野原へ行くと、訓練所が、うしろは、な
れた所では、いつも、のやうに、滑空機が、
あつた。滑空機の前を、通りすぎやう
とする時に、だれかが、あつた。岩丸先生と
おつしやつたので、びっくりして、滑空機
の方を見ると、訓練生の中に、岩丸先生
が、いりつしやるのが見えた。一番、なわ
のは、いりつしやつた。その中で、
岩丸先生は、一番、せいがお高くて、ズボン
が、オリーブ色なので、すぐわかつた。
わらびを取り始めた所は、いつもと、
ちがふ所だった。始めの内は、小さいの

六月十一日換

とくやうとありて、
 誤りのたゞにね



六月十一日 月曜日 晴
今日は休養だ。午前中は荷物のせいりをした。私は荷物がそうごちや／＼ではなかつたので荷物のせいとんも、すぐには終った。私は日記を書いておると、岩丸先生が、食事當番、コップを持って、集合とおつしやつた。私はコップを、食事當番の方にわたした。それから少ししたつてから、私達は、國行さんのお田様が持つて来てくださったお菓子とするめと、お豆をいただいた。お昼食がすんで、前田寮へ歸つて、少し日記を書いてから、十七日の發表會は何をするのか、きめたが、何々々々々なかつた。とう／＼きまらないうちに出發になつてしまった。夜、寮へ歸つてから、はなをと、禮法の講習會をした。



六月十二日 火曜日 雨
 今日、第三日めの授業だ。國語の時は、七、とばと文字と八海の幸の書取をした。國史の時間は自修だったので私は日記を書いてゐた。午後はお風呂に入つた。お風呂には、三組がら入つた。私は入るまで昨夜おならひした所までけなを作つた。私が入つた時には、有賀先生が、お入りになつてゐた。私が出る時には、木先生がお入りになつた。二階へ上りて行くともう二年生が来てゐた。夜、石田先生に、水いやうのかぞといふお話をしていた。だいた



六月十三日 水曜日 小雨
 朝外を見ると向かふの方がよく見えないので、どうしたのかと思つてよく見ると、小雨が降つてゐた。まるできりかいたつた。一時間の算数は、阿久澤先生がいうつしやつたので、自修だつた。國史の時は、コンパスと定本をつかつしやうを書いた。四時間めも、阿久澤先生の理科だつたので、自修だつた。午飯後寮へ歸つて、お家にお手紙を書いてゐると思ひがたなく、前田先生がいうつしやつたので、びつくりした。それから少したつと、宮地先生がいうつしやつた。



六月十四日 水曜日 小雨晴

音楽の時間に、大八洲を、並木先生に
おたならひした。 奥中と一番高い所を
おならひした。 國語と算數と理科の
時間は自修だった。 國語の時間は
九軍艦生舌の朝をいくつにきかせるか
といふことと、軍艦生活の朝の中の
いいと思ふ文を、お帳面に書いたが時間
があまつたので、算數の二十五頁をいた
算數と理科の時間はつづけて二十五頁と
二十六頁をした。 六時間めの、お裁縫の
時間は、きかせるきかた、この次の時間は
ぬふのだと思ふといふ丸しかった。 夜、
石田先生がいうつてやっつて、蛙大明神と
にくづきのめんとにくづきのめんのお
話に、たお話をしていただいた。



縫か

六月十五日 金曜日 曇晴

今日は、立野ヶ原へ、山菜取りに行つた。
わらびを取り始めた所は、この間と同じ
所からだった。 この前と、同じやうに
取り始めた時は、あんなまりなかつたが、
少し歩くといつぱいあるやうになつて来た。
少し、いゝ所、わらびを取つておると
警戒、警戒報になつたので、私は、びつくり
してしまつた。 向かふの方から、岩丸先生
の聲が聞へて来たが、よく聞き取れたな
かつた。 私は、急いで、わらびを取りながら、
岩丸先生や、有賀先生のいうつやする方へ
行つた。 また少したつと、岩丸先生の聲
がした。 それから、後、二、三、先生が、
いう、なごを、おつしやつた。 それ
から、又、どんどんわらびを取りながら、
歩いておると、ぜんまいの大きくなつたのが
澤山あつた。 私は、そこへ行つて、葉っぱの
下の方を見ると、ぜんまいがあつた。
その近所を見ると、ぜんまいや、わらび
が澤山あつたので、私は、喜んで、取つた
又、どんどん取りながら歩いて行くと、
岩丸先生が、まはれる、とおつしやつた。

私は、まはれ右をいし、よく見をしたがら、歩いてゐると、かた足を、ぼちやん、と、水たまりにつっこんでしまった。そのとたん、有賀先生が、前田寮、こつちへいらつしやと、おつしやつた。私は、有賀先生のいらつしやる方へ行つた。運動ぐつが、いゆいゆいって、氣持がわるかつた。おべんとうをいただいてから、八白谷さんと野村さんと、私とで、わらびを取つた。歸りは、この間、同じ道を通つたが、途中で、滑空訓練所の、前を通つて行つた。寮へ歸つてから、冷水まさらをした。



六月十六日 土曜日 晴

朝食器を洗つて、お教室に歸つて来ると、岩丸先生が、黒板に何が書いていらつしやつた。今日は、体動則定があるのだ。もうじき山下寮で、体動則定があるのだが、ひとまず前田寮へ歸つた。洗たく物を水につける。と、三年生が、三年は、体動則定すうまうと、いって来た。私達は、洗たく物を水につけたまま、山下寮へ行つた。私の体動は、二八・六だつた。山下寮から歸つて、すぐにふとんをほした。それから、お洗たくをした。お洗たくがすんでから、おさるパンを、皆んな、一つずついだけた。それから、お水おろし、すぐ、お晝食なので、出發用鏡になつた。

ワレシイナ
フエタエタ



今日は全校運動があつた。今日の全校運動は、いつもとちがつて、敵がもしも、私達の疎開してゐる富山へ上陸して來たり、私達がやつつける訓練だ。始めに、かけ足を、運動場、一まはりした。ちやうど一まはりしたぐらひの所まで行くところ、おともだちをせはつてかけ足だ。私は、野村さんにおぶさつた。しつぱうの前へ行くと、岩丸先生が、こゝうた。おつ、やつた。私が、こんどは、野村へんをおぶつて、走つた。おすもう場の前で、野村さんをおろして、又、走つた。朝禮だいの前で、足ふみをして、皆んなの来るのをまつた。岩丸先生は、これかうすることをお話になつた。そして、班をきめてくたさつた。私達は、四班、五女だつた。四班は、始めに、阿久澤先生に、手彈彈の、彈、げ方を、おならひした。ボールを、敵の頭だと思つて、小さいマリを、彈、げるのだ。ねうひを、定めて、えいつとばかりに、彈、げるのだが、何々あたらない。

双刀



六月十八日 月曜日 晴

今日は、くわ山へ山菜取りに行くのだ。登りは、この前とちがつて、この間降りた方から登った。この間、めいたいにすべりなかつたが、だが少しもすべった。

かき登ると、上の方から、頂上についたぞ、といふ、よし、かど先生の聲がした。もう、いき、こう思ひながら、私は、登つて行く、と、かけめいたいな所へ出た。そこで、ふきが、澤山あつたので、ふきを取、り始めた。四年生は、下で取つてゐるらしく、また上つてこない。二三年は、今日は、くわ山へ登らずに、とんねるのさへ行つた。

ふきを取つてゐると、阿部先生が、あつしやつた。そこへ行つて見ると、ふきが澤山あつた。そこで、しばらく取つてゐると、先生が、上へ、登、水、と、おつしやつた。私達は、ふきを取るのをやめて、上へ、上つて行つた。私は、半分登りかけでゐると、だれかが、あつ、茂木先生、といった。下を見ると、四年生と、石田先生と、茂木先生が上つて、いうつしや

つた。頂上へつくと、阿部先生のおまゝ、すて、お晝食をいただいた。歸りも、もとの道を通つて、歸つたが、こんどは、ものすごくすべった。私の後が、坂口さんで、上原さん、八百谷さんとすべるやうに、かけ降りた。



一寸ガマの絵の合やと、
みるみる、と、

145

皆んな集つて、ミツタを歌った。

面白かったね。



月一日 水曜日

今日は、立野ヶ原へ山菜取りに行つた。六年
と、四五年と、二三年に、あつた。行つた。山
空訓練所より少し前の所から取り始めた。
セリが、澤山あつた。面白いはどある。
いばうく取つたかなさうなもので、他の所へ
行つて取つた。それから、セリやうが、あつた。
畠道を見ながら歩いた。セリがある。
と、つみながら歩いた。いばうく歩くと、
お宮の前へ出た。そこから、森みたいなの
所を歩いた。そこには、だいたい、セリがあつ
た。森みたいなの所を出ると、ありに、廣い。

とほりに出て、又、林の中へ入つた。林の中
ミツタ取りをした。よ、氣をつけて見ると、
澤山ある。ミツタ取りが、むと、お晝食に
なつた。私は、八百谷さんと、野村さんと、高
島さんと、荷物を、大木の上にのせて、近くの
川へ、手を洗ひに行つた。むかさんといふ
うさんには、もう御飯を、たべてゐた。
手を洗つて、むかさんたちが、ゐる前まで
来ると、もうとう。かかつた。お晝食が、
すむと、今朝出發の時、いただいた、オリンゴを
いただいて、セリの、せりをした。



六月二十一日 木曜日晴

今日は、午前中、二十五日の発表會の練習を、女學校の校堂でした。三度めの練習をいやとする時、警かい、警報のこい、鳴り出した。急いで、練習を止めて、一號教室へ行つた。すぐに、防空服裝を取りに、前田寮へかけ足で歸つた。前田寮へ歸つてから、又、かいいよになるの、やあ、ないのか。と思つて、急いで、外に、集合した。學校へつくと思つた。午後、寮へ歸つて、発表會に使ふ、繪を書いた。私は、高島さんと、野村さんと、平松さんで、くんで、起床の時、温度をはかつて、おる繪を書いた。

発表會の練習



六月二十二日 金曜日晴

今日は、青少年學徒にたまはりたる、物語の記念日なので、お宮のけい、たいで、お武があつた。午前中、こい、後の発表會の練習を、女學校の校堂で、べんだけ練習をして、こんどは、國民學校の校堂で、並び方をなつた。午後、前田寮へ歸つて、お洗濯をした。お洗濯をすませてから、私は、日記を書いた。夜、ほたる取りに行きた、い入たけ、お家の方へ行つたが、私は、日記を書かなければならなかつたので、つ前田寮にのこつてゐた。



六月二十三日 土曜日 晴雨

今日は発表会の練成會があつた。

練習は、女學校の校堂でした。三女は、五月

の発表會と同じ、つりばりの行くへ、二三

男女は、少彦名神、五年男子は、三日月の影

といふ紙芝居、四年男子は、郷土のかんさつ

四女は、疎開日記、二部六年は、敬語の使ひ方

三部六年は、字號、通信の暗さう父の時

三部六年の字號、通信の暗さう父の時

どなたか先生にやうていたたまふといつ

て、さい藤先生がおやりになつたのは、

お書かな、おなかがすいたといふので、

宮地先生がおやりになつたのは、若連の

通信は、なかな、うまいね、といふのだ

つた。とても皆んな上手に出来たと思つた

が、ほんとうの発表會の時は、もっと上手に

しなければならぬ。夜、うじん用鏡の

前に、有賀先生が、歸つていたつしやつた。

三部六年ノ字ゴッウシン



六月二十四日 日曜日 雨

今日は四時間めは、國民學校の校堂で、明日の

発表會の、こしごこし、本、とうのさいごの練習

をした。四時間めまでは、自由だったの、

私は、日記を書いた。後は、前田寮

へ歸つて、野村さんや、八百谷さん達と、

防主めぐりをした。私は、防主めぐりが

終ると、子ヨッキを、どかなり、ればならぬ

いので、ナヨッキを出してゐると、坂口さんと

野村さんが、ほどこかして、とおつしやつたの

で、ほどこいて、いただいた。八百谷さんも、

ほどこいふとおつしやつたので、グツシリ

を、ほどこいて、いただいた。



六月二十六日 火曜 晴

今日はほんとうにうば山菜取りに行くはずだったのが、急にまき運びになった。朝起床になつて、かん。あまさつをしてぬると、加藤先生がいうつしやうへ、今日は四年以上は山菜取りを中止して、西友美村までまき運びに行きます。とおつしやうてゐるのが聞へた。八時にこちへを出発し、向かうについて、約一時間係人であらううらにあるまきを、おもてに運び出した。十二回めのを運び出す時、杉さん達に、沖なはがぎよくさへいたよ。と聞いて、思はず、おくばをかみしめた。はつとして止ると、だれかが、そんな所にかたまつておないで、もつとまきを運びなさい。といつた。私は、又、歩き出した。止め。晝食用憶のうばいがかかるまで、私は、十六回運んだ。おべんじうは、道のはしにあつた大木の上でいた。たゞ始ると、出火、突くと、見送る人達が、澤山通つて、ほこりが、けむりのやうに、もう、とたつた。先生は、ほこりが入るから、おべんじう箱のふたを

しめなさい。とおつしやうた。おべんじうをいただいてから、桑の實を取つた。べた。歸りは、まきを少しづつ持つて歸つた。寮へ歸つてから、お風呂に入つた。夜、小矢部川のふちに、はたる取りに行つた。



六月二十七日 水曜日

今日も、西太美村まで、まき運びた。今日は、おべんとうを持って行かないで、午前一回、午後一回運びのた。午前中は、二年から、六年まで、全部運んだ。午前中、まきをいたたくと、お宮の所まで、ほく合さんと、話しながら、歩いた。お宮の前まで来ると、星合さんが、まきを取りかへて、といったので、今まで、星合さんが持っていたのを、持つと、今まで、私が持っていたまきの二ばいくらいのおもさで、とても、おもたかつた。星合さんは、かきい〜といつて、先に、走って行ってしまった。持ってからしばらくの間は、そんなにもおもくたなかつたが、小池國民学校の前あたりまで来ると、とてもおもくなつた。小池國民学校の前から、だいたい歩いた所で、男の方と、女の方におあひした。男の方は、持っていないついで、トラクタをおもさうに土の上におおきになつて、あせをふきたから、おじやうさん、小池國民学校の生徒がおるお寺は、どこですか。と、私にお聞きになった。私は、この道をもつと、

まつすぐいうつしやると、右かにはあります。とお答をして、まきを持って、歩き出した。午後は、四年以上か運んだ。

以



かんぱりまーたね

六月二十八日 水曜日 晴

今日は授業があるので、朝、防空服装といつしよに、授業のどうぐを持って行った。朝會の後、しばらくしてから、前田寮へ歸って、たたみ上げをした。たたみ一枚一枚に、数字で、番号が書いてある。

岩丸先生は、一字をけさないやうに、集れ。とおつしやった。たたみを運ぶのに、三人組を作った。私は、柳野さんと小林さんとだった。階段を、たたみを持って降りるのは、何々が、あがしい。うっかりすると、階段からおちこつてしまふ。そろそろと、落ちないやうに降りた。

私達は、五回運んだ。お昼食のあと、出した、たたみを入れた。私は、たたみを入れたあと、かうあとかうごさをして、いた。全部入れらぬと、小矢部川へ、遊びに行つた。中へ入ると、ものへんまで、いか水がないが、ちよつとでもかた足を上げておると、ながれが急なので、おしたほされてしまふ。入るのもあさると、二人どは、ハンケチを洗濯した。それから、メガネ取リ濯

をした。何々つかまらな〜。四行さんとハンケチを水の中に入れて、やつと三匹つかまへた。私がそれから、手づかみで、一匹つかまへた。小さいえびかに、もつかまへた。夜、かやをつつた。



六月二十九日 金曜日 晴

今日は、まき運びだ。福光校の、五年以上の方が皆んなで、お手使をしてくださった。行く途中、福光校の母の先生二人におあひした。西太美につくと、もう福光校の方は、来ておらつてやつた。私は、あかぬ。かかると、坂口さんと河井さんと、星台さんと、大木に、しをかりて、話をした。運ぶ時に、少し頭がいたかったが、だんだんいたなくなつて来たので、ゆっくり歩いておると、後から岩丸先生がいうつてやつて、まきを持つてくださった。そうして、先に、行つて、おもたさうなのを、いついよに、持つてやれとおつてやつた。私は、どんどん歩いて行つて、おもたさうな人のを、いついよに持つてあげた。山下寮へ行くと、かき原さんが湯のみ茶碗に、お湯をつぱい入れた。のどがかわいしめたので、とてもおいしかった。



六月三十日 土曜日 雨

今日は、一時間めと二時間めに、ふきの手入をした。有賀先生が、高島さんに、高島さん、二階へ行つて、皆んな、何をしておるか、見て来て、ちやうだい。とおつてやつて、高島さんが、二階へ行つて、うつて、おるときに、二十三日に、高島さんのお母様がなくなつたことを、有賀先生にお聞きして、びっくりした。午後、前田寮へ歸つて、お部屋がへを、した。私は、すみれの部屋で、山崎さんと、前野さんと、小林さんと、いついよだ。おる場所は、今まで、柳野さんがおいて、いつやつた所だった。



七

月

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六



天
川
ホシセナ
タナ

七月一日 日曜日 曇雨
今日は、一時間めの音楽の時間に、大八州の三部合しやうを並木先生におなういた。二時間めの算数の時間は、自修だったのので、私は、日記を書いておると、並木先生が入つていうつてやつて「五年」年女子は、お魚のはいさうを取りに行きまう。とおつしやつた。お魚は、かいてあるかう、ざるで、平気です。水事場へ、入れ物を取りに行く、やなぎさんが、さう並木先生にいつておた。一つのかづを、二人で持つのだが、私は、一人はんぱになったの、還一人で持ったとしても、かるかった。お裁縫は、寮で、また上をぬった。それから、三時から、お書一冊をした。



七月一日 月曜日 雨

今日は休養だ。午前中、前田寮へ歸つて、始めの中は、地圖を書いた。地圖が書けてから、河井さんとお話をしながら日記を書いた。午後、岩田さんが、心の王冠といふ本を、読んで、私の所にまはつて来たが、日記を書かうとする、野村さんが、なるたけ早く読んでね。といったので、三十分以内で、読んで、野村さんにめたすと、めあつ、もう読んでの。とおどろいてみた。出発用億の少し前に、どうなつていただいた。夜、少し、胸がすこし、むかむかして、氣持がゆるかつたが、すぐぬむつてしまった。



七月三日 火曜日 晴

朝、起床のちよつと前に、目がさめると、頭が痛くて、少し氣持がゆるかつた。起床になつて、茂木先生に氣持が、ゆるくて、頭が痛い。といふと、茂木先生は、さう、それ、や、ね、ね、うつしやい。とおつしやつた。私は、又、ふとんの中に入つた。皆んな出かけて、私一人だけになつた。うつしやい。いとおると、有賀先生の聲で、目がさめた。何だかさつさ、まことちやんが来て、おかわいて行つたやうな氣がいたので、まをりを、とを見つと、たまごがあつた。有賀先生は、起きて、お食事をいただいた。さなさい。とおつしやつた。私は、起き上つて、有賀先生が持つて来てくださったおかわいをいただいた。たゞ終つて、少しぬておると、先生が、皆んなに、わけらぬませんから、おたべなさい。とおつしやつて、たまごを持つて来てくださった。私は、たまごをいただいた。から、又、長い間ぬむつた。今日は、私達がお風呂に入るの、午後になる。と、皆んな歸つて来た。そ、れ、から、だいぶたつて、お晝食をいただいた。河井さんも、坂口さんが、私のぬるそばで、日記を書いたり、地圖

書いたリにながうお話をした。

七月四日 水曜日

朝少し氣持があるかつたので、こは人を少くにして、おただいた。

朝會

後、氣持がわるくなつたので、先生

におつゝ、音楽室で休んでねた。

三時

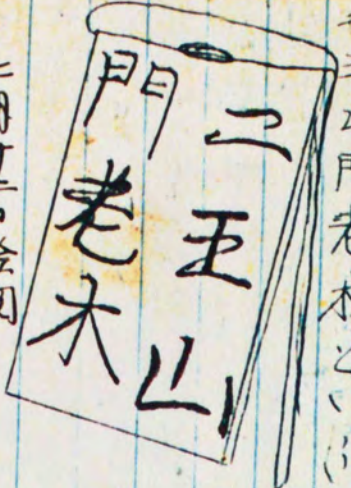
間めになると、音楽室をつかうので、一号教室へ

来て見ると、三時間めの算數

が始つてゐた。私は後で休んでねた。四時間めのお習字の時間は、少しよくなつたので、やめた。

二王山門老木といふ所だつた。

下



七月十一日 検閲

終りかよく書けました。

この次はたりねやんしをせうね。

